

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都目黒区八雲 3-12-10-101
園名	アスクバイリンガル保育園やくも

1. 活動のテーマ

<テーマ>

国旗を知ろう

<テーマの設定理由>

今年度よりバイリンガル園へ移行したこともあり、園内に様々な国の国旗を英語や外国への興味付けとして飾っていたので、さらにそれを深め、知識として増やしていったり、国旗というモノを知り、自分の想像力を働かせながら、オリジナル国旗を作ってみたりする。

2. 活動スケジュール

11 月から3月まで行い、英語講師との英語のやり取りをしながら国旗について学んだ。また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と英語講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11 月：国旗を見ながら、その国の特徴について知ろう

12 月：国旗の特徴を知ろう(色や形を覚えよう)

1 月：オリジナル国旗を作ってみよう

2 月：国旗の色を覚えて色を塗ってみよう

3 月：覚えた国旗を描いてみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

色鉛筆、クレヨン、国旗カード

【3 歳児実施分】

問いを考える：国旗を見ながらその国にまつわるカードをどちらの国のものかを考える、キーワードを聞いてどの国に当てはまるものかを考える、自分のフラッグを作ってみよう、国旗の色を塗ってみよう、国旗の特徴クイズ

探究活動の様子：JAPAN と USA の国旗を確認。絵カード(おにぎり、ハンバーガー、すもう、フットボールなど)を見て、どちらに当てはまるかを考える。難しい様子で戸惑っていたが、正解すると大喜びだった。日をあけてやってみると、以前やったことを覚えていて、スムーズで自信をもって答えられていた。国旗にまつわるキーワードを講師と一緒に英語で発音し確認していく。自分の国旗を作ることには喜んでいて、「虹を描いた」「日本だよ」「むらさきの星だよ」などと自分の描いたものを伝えたり、思い思いに描き進めていた。国旗の数を増やし、確認しながら、色を塗っていく。覚えていて自分で塗っていく子もいれば、国旗を確認したり、友達や講師と確認し合って塗る子もいる。

ふりかえり（保育士の気づき）：見慣れないものに、クイズで正解しているか不安な様子もあったが、友達と一緒に考えたり、答えを選ぶことで自信をもって楽しく取り組んでいた。フラッグづくりでは、色々な国のフラッグを見て学ぶことにより、自分のフラッグ製作のイメージが広がり、楽しんでいるようだった。繰り返し行っているので、国名を覚えている子もいて、答えられると嬉しそうにしていた。クイズのあとすぐに国旗を描くことで、しっかり身に付いていることが子ども自身も気づいたようで、活動後もやりたい！と言っていたので、今後も取り入れていく。

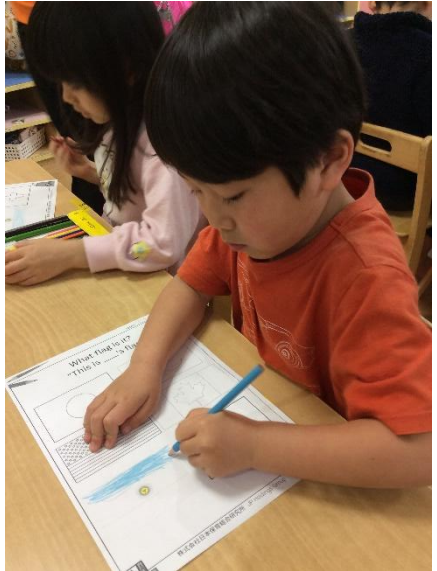


【4 歳児実施分】

問いを考える：国旗を見ながらその国にまつわるカードをどちらの国のものかを考える、それぞれの国旗カードの色や形を知ろう、自分オリジナルの国旗を作ってみよう！、国旗を覚えて色を塗ってみよう、ワークシートで国旗を描いてみよう

探究活動の様子：日本とアメリカの国旗カードを見て、「JAPAN」「USA」と発音したり、「rise ball」「hamburger」、「Mt.Fuji」「statue of liberty」など、それぞれのカードがどちらの国に入るのかを考える。正解かがわからなくて答えにくそうにしている子もいたが、正解すると喜んでいて。国旗の色や形を英単語で言うクイズは、日頃使う色などの英単語が出てくるので、わかっている子も多かった。自分の国旗を作ってみようと声をかけると「見本を見たい」と言って、なかなか描き出せない子がいた。他、自分の好きな物を描いたり、色鉛筆を一斉に5本持って描いてみたり、個性豊かに仕上げた。4人掛けのテーブルに座っている友達同士が会話するように「これは何を描いたの？」と保育者が仲立ちし、絵についての話を広げていくと、友達の旗にも興味を示していた。ワークシートでは、6か国のイラストがある用紙を配布し、国旗を思い出しながら色を塗っていく。子ども同士で思い出しながら保育者に聞いたりして、色を塗っていく。国名を伝えて、ワークシートに国旗を描くときは、子どもたち自身で「日本は赤い丸だね」「アルゼンチンって何色だっけ？」「ライトブルーとイエローだよ」など友達同士で会話をしながら思い出していた。

ふりかえり（保育士の気づき）：初めは、日本とアメリカの2か国を覚えるところから始まり、ゲームやクイズ、ぬりえ、発音を繰り返していくうちに、6～8か国の国旗を覚えられるようにもなった。ただ、記憶するのではなく、クイズ形式にしたり、クラスみんなで発音することで、楽しく覚えていけた。国旗づくりでは、見本がなく、なかなか描き出せずにいた子に対して、1対1でゆっくりとその子の好きなものを思い浮かべられるよう促せた。一人ひとりが描いた絵を言語化してもらい、会話を楽しみながら国旗づくりを進めることが出来た。



【5 歳児実施分】

問いを考える：国旗を見ながらその国にまつわるカードをどちらの国のものかを考える、国旗を見てどんな色が使われているかどんな形でどんな色で書かれているかを知る、オリジナルの国旗を描いてみよう、国旗で国名を覚える、国旗の色を塗ろう、国旗を描いてみよう

探究活動の様子：日本とアメリカの国旗を見て、二か国にまつわる英単語が日本とアメリカのどっちなのか答える。二か国にまつわる英単語の〇×クイズを行う。わからなくて、周りの雰囲気を見ながら答える子が多い。日本など4か国の国旗カードを見て、「どんな色か」「どんな形があって、何色か」をクラス全体で考えた。色の名称はほとんど英語で自発的に言えるものが多くあるので、国旗を見てすぐに英語で答えていた。オリジナル国旗づくりでは、はじめは困っている様子だったので、好きなものを書いていいことを伝え、周りを見ながら描き始める。一人の子が描き始めると、続いて周りの子も描き始める。友達同士で話したり、保育者に話したりする。30分以上かけてじっくりと描き上げる子もいた。国旗の色塗りでは、まだ覚えきれていない子も多かったため、事前に確認してから塗るようにした。色は自信をもって英単語で話すが、形には自信がない様子でヒントが必要だった。今までに繰り返しやってきた国旗は覚えているようだった。

ふりかえり（保育士の気づき）：すくわくをスタートさせてから日歩の中でさらに英語を子どもたちが使っていることが増えた。世界の国旗について理解が深まり、「これは〇〇のこっきみだい」「〇〇に形が似ている」「この色はイタリアみたい」と日常の中で子どもが発見して発言するようにもなった。保育の中でも取り入れられることも多くて、アレンジすれば、もっと子どもたちの興味関心に沿ったものができそうだと感じた。子どもたちが楽しんでいたので、覚えていくことができたのだと思う。日々のレッスンとは違い、一つのテーマを作り、長い期間をかけて取り組んでいくことの大切さを実感した。いろいろな世界に子どもたちが目を向けるようになる、今までの子どもたちにはない視点からの発見を見ることができた。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都目黒区八雲 3-12-10-101
園名	アスクバイリンガル保育園やくも

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽絵本を作ろう

<テーマの設定理由>

絵本を題材にしながら、言葉や自然に対してなど、日々の活動を広げていっていたので、そこに音楽という視点もプラスして、子どもたちのイメージや想像力、表現力などを膨らませられると考えたため

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回音楽の講師を招致し楽器の演奏や歌声など本物に触れる機会を創出した。
また、その時点での子どもたちの興味関心をもとに、保育士と音楽講師と共に問いかけや内容を考え、子どもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする

11月：音楽や音を聴いてどんな風に聴こえるかを絵で表現してみよう

12月：音楽を聴きながら絵本を見て、音に合った感情や見え方を考えてみる

1月：絵本に出てくる場面にどんな音が聞こえてきそうか、身の周りにあるどんなものを使うとその音を出せるか

2月：絵本に出てくる場面に合う音は見つけられたかな？

3月：絵本の場面に合わせて、見つけた音を鳴らしてみよう

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

ピアノ、絵本(クレヨンのかろくん、3びきのこぶた、ブレーメンのおんがくたい)、スピーカー、身近な玩具や楽器など

【3 歳児実施分】

問いを考える：音楽や音を聴いて、どんな風に聴こえるか、気持ちを想像して色で表してみよう、音楽を聴きながら絵本を見て音に合った感情や見え方を考えてみる、絵本の場面に合わせた音を集めてみよう、絵本の場面に合わせて音を鳴らしてみよう

探究活動の様子：保育室を暗くしたり、寝転がったり様々な環境の中で、音楽を聴いてみる。「効果音を聴いてどんな音だと思う？」の問いに部屋が暗い時は「幽霊が出た」「こわい…」と言う。部屋が明るい時は「ポケモンの音だ～」「人魚姫みたい」と言う。うれしい、たのしい、かなしいなどの感情の説明をし、カラーシールを貼って表現した。うれしい、たのしいには明るい色、悲しい寂しいには暗い色のシールを選んでいた。音楽を聞きながら様々な絵本を見る。どんな音が聴こえたか、どんな感情などがイメージ出来るかを聞いてみると、思い思いに話す。今度は、イメージできた音を身近なものの中から自分たちで探してみようと提案するが、難しく、見つけれられない様子。玩具に、細かいものを入れて音を鳴らすなど見本を見せると、少しずつやりはじめる。自分で見つけるのは難しそうだったので、様々な楽器を用意し、絵本の場面に合わせて、自由に鳴らしてみる。

ふりかえり（保育士の気づき）：うたを歌うことが大好きで、音遊びを日々の保育に取り入れていることもあって、思っていたよりいろいろな場面で音を聴くことを楽しみ、感じたことを表現していることに驚いた。思いを言葉に表現するということは難しくても、絵に表すとスムーズにいく、ということに気付かされた。音と言われると、大人だと擬音や楽器など実際にある、イメージしやすい音で表現しそうなところを、子どもたちは、豊かな想像力から、具体的な場面を表現してくれ、子どもたちの可能性や想像力、感受性の豊かさを感じ取れた。その部分を大切にしていってあげたい。

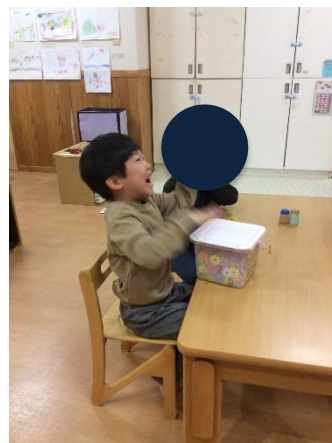


【4 歳児実施分】

問いを考える：音楽や音を聴いてどんな風に聴こえるか、絵本を見てどう感じたか、この本に音をつけるにはどうしたらいい？、絵本に出てくる場面に合う音はを見つけよう、どここの場面の音を探してみたか、うやうや音を鳴らすか

探究活動の様子：活動内容の説明をし、室内を暗くして、子どもは寝転がり音楽を聴く。どんな音が聞こえたかを考え、絵に描いて表現する。音楽を流しながら絵本を読み聞かせる。読み終わった後、どんな音が聞こえてきたかの質問に対して、「花火のドンって音」「太鼓の音」などそれぞれが音を聞いてイメージしたものを答えていた。絵本に出てきた一場面をマラカスを使って自由に鳴らして表現する。絵本を読むリズムに合わせて鳴らす子や、走っているように素早く鳴らす子がいた。今度は自分たちで、身近なものを使って音を探してみる。見つけた音をグループごとに講師や他グループに発表する。絵本のどの場面を選んだかも再確認して絵本の読み聞かせに合わせて見つけた音を鳴らしてみる。

ふりかえり（保育士の気づき）：ブレーメンのおんがくたいの絵本は園で読んだことがなかったので、1 回目の読み聞かせでは真剣に見ている姿があったが、さらに場面に合わせた BGM がつくことでどんなシーンなのか想像しやすく、子どもたちも絵本の内容が入りやすいようだった。また、自分が好きなシーンを選んで自分で見つけた効果音を付けるのも楽しかったようで意欲的だった。すくわくがなければ、取り組むことがないような内容だったので、音探し、今後もし取り入れたり、アレンジしていきたい。



【5 歳児実施分】

問いを考える：音楽や音を聴いてどんな風に聴こえるか、絵本の読み聞かせ後にシーン別にどんな音が聞こえてきそうかを問う、身の周りにあるどんなものを使うとその音を出せるか、どんな音を見つけてきたか、見つけた音を出してみてもうだったか、どのタイミングで音を出すか、見つけてきた音や場面以外でも、音を探してみよう、前回見つけたときの音とは別の音を探してみよう、見つけてきた音を実際に絵本の読み聞かせに合わせて鳴らしてみよう

探究活動の様子：音楽を聴いて絵を描くという説明に、あまり活動のイメージが湧かない様子。どんな音が聞こえてくるか予想しながら、「くれよんのくろくん」の読み聞かせを聞く。どんな音かを聞くと音を言葉で表現することはできそう。今度はブレーメンのおんがくたいの読み聞かせを見る(音楽はなし)。印象的だった場面を話し合い、その場面ではどんな音が聞こえてきそうかを問う。擬音をつかったり、どういう音なのかを具体的に答える。保育室にある身近なものを使ってその音を探し出す。友達の動きも見ながら、それぞれが玩具を使ったりして音を出す。みんなで、場面に合った音はどれなのかを話し合い、1 つに絞る。講師にその音を発表し、実際に絵本の場面に合わせて鳴らしてみる。音探しが出来そうだったので、他の場面での音も探したり、同じ場面で他に合う音はないかも探してみる。楽器でもやってみると、自分で強弱をつけたり叩き方を変えて音をアレンジしていた。

ふりかえり（保育士の気づき）：活動後にすぐ、それを広げられるような活動を入れていかないと、時間が空いてからだと子どもたちも忘れていた様子があった。玩具を、普段の保育とは違う使い方をすることによって、新しい発見があった。なかなか自分の意見を発信しない子もいるので、その子達も発言できるように、すくわく以外でもそのような場面を作って人前で自分の意見に自信をもって発言できる環境を整えていきたい。子どもたちが自分で考えて楽器の鳴らし方を工夫していたので、今までやってきた取り組みが身に付いているように感じた。考えるだけでなく、考えてから実際に音を出してみることがすぐにできる環境だったので、子どもがいろいろ試すことができた。

・本当は違う音かもしれないが、正解があるものでもないのて、子どもたちが自由に音を出したり考えたりする時間が成長になる。



とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都目黒区八雲 3-12-10-101
園名	アスクバイリンガル保育園やくも

1. 活動のテーマ

<テーマ>

ジャンプ(“跳ぶ”について考えてみよう)

<テーマの設定理由>

日頃から、縄跳びや大縄が好きで活動や遊びの中で多く取り入れていたので、その中の“跳ぶ”ということに着目し、跳び方などの工夫の仕方を自分たちで考えてみる。

2. 活動スケジュール

11月から3月まで行い、月に1回体操の講師を招致し、“跳ぶ”ということについてこどもたちの前で実演をしたり、探究心を書き立てるような助言をもらう。また、その時点でのこどもたちの興味関心や考えをもとに、保育士と体操講師と共に問いかけや内容を考え、こどもたちの反応や言葉によって次回の内容を柔軟に変えていけるようにする。

11月：ダンスの中からジャンプを見つけてみよう

12月：その場で上手にジャンプするにはどうする？

1月：どうやったら遠くまで跳べるか考えてみよう

2月：ジャンプの種類を考えてみよう

3月：振り返り

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

マット、丸シリコン(目印用)、大縄、跳び箱、テープ(目印用)、デッキ(音楽を流す)、リング
広々としていて、こどもたちが十分に身体を動かせる環境

【3 歳児実施分】

問いを考える：日常にある“跳ぶ”を探す、丸からはみ出さずにジャンプするには？、どうやったら遠くまで跳べるか、どんな種類のジャンプがあるか

探究活動の様子：馴染みのある、ジャンボリーミッキーやアンパンマン体操を踊ってみて、その中にどんなジャンプがあったか、振り返って考えてみる。子どもたちは、自分がした動きを上手に言葉で伝えようとしている。リングを置いて、その中からはみ出さずにジャンプするにはどうしたらよいか考えてみる。自分たちが思いついたことを積極的に発表している。立ち幅跳びで、遠くに跳ぶにはどうしたらよいか考えてみる。こちらも積極的に意見があがり、自分たちで導き出したことを意識しながら再度立ち幅跳びをやってみる。すると、記録が伸びて喜ぶ。目標地点を決め、そこに向かって跳ぶにはどうしたらよいか、講師が見本を見せながら、身体の動きを一つひとつ確認してやってみる。着地も崩れないようにするにはどうしたらよいか考えてみる。ここでも積極的に自分の思ったことを発言していた。普段遊んでいる、だるまさんがころんだにジャンプを取り入れて遊んでみる。いつもとは違う様子に子どもたちは笑っていた。(オニが振り返った時に止まっているのではなく、ずっとジャンプをしているというルールにした)その中で、はじめの一步でどのように遠くへ跳ぶジャンプをしたかを確認する。思い出しながら話していた。これまで、どんなジャンプをしてきたかを振り返る。

ふりかえり（保育士の気づき）：これまで、遊びの中にあってもジャンプに対して、意識したことがなかったので、一つの動きであってもしっかり手足を細かく使うことを意識できるように働きかけることは大切だと感じた。また、都度振り返りながら、子どもと確認していたので、子どもも自分がした動きをすぐに思い返しながらか言言することができていた。抽象的な質問の仕方だと、子どもたちも分かりにくそうだったので、体の部位ごとに一つひとつ確認していくと、考えやすそうだった。子どもから出た意見を受け止めつつ、他の子にも分かりやすいように言い換えることで、全員が共通の理解をしながら活動を進めていくことができた。継続して取り組んできたことでこれまで何気なくやっていたジャンプに対して、子どもたちもよく興味を示していたように感じる。遊びの中で見つけるというのも、子どもたちにとってやりやすかったように感じる。



【4 歳児実施分】

問いを考える： どんなジャンプがあるか考えてみよう、丸い枠からはみ出さないようにジャンプするにはどうしたよいか考えてみよう、どのように跳んだら遠くへ跳べるか、どんな身体の動きで跳んでいたか、跳ぶときにどこの力を使っていたか、グーパー跳びどちらの方が大縄で多く跳べそうか、高く跳ぶ時はどうやってとぶのか

探究活動の様子： 3 歳の時に運動会で踊った、ジャンボリーミッキーを踊ってみてその中にどんなジャンプがあるかを考えてみた。積極的に挙手して講師に披露していた。子どもたちが動きで伝えてくれたので、他の子にも分かりやすいように、保育者が身体の動きを言葉にして伝える。枠からはみ出さないようにジャンプする場面では、グループに分けて話し合いをしていたが、なかなか意見が出てこなかったので、実際に試しながら話し合うことを提案してみると、自分がやった動きを友達に言葉で伝えることができていた。遠くまで跳ぶときには、1 人ずつやってみて、一番遠くまで跳べた子にどうやって跳んだかをみんなで聞き、次は言われたことを意識しながらやってみると飛距離が伸びた子が多かった。跳び箱を使って跳ぶときには、まず講師の見本を見て、身体がどのように動いていたかを確認した。講師の動きから、「グー跳び」「パー跳び」ということが出てきたので、継続して、大縄でもやってみる。グループにかれて、どちらの方が大縄で多く跳べるかを考えてみる。チョキも試してみると難しいとのことだった。他の子が跳んでいる様子を見て、「跳ぶタイミングも大事」と気付いている子もいた。

ふりかえり（保育士の気づき）： 保育者が子どもに考えるきっかけを作ったり、質問をしていくことで、より跳ぶことに対してどのように身体を動かしたらよいかということに対して真剣に向き合い、発見し、自分のものになっているようだった。実際に跳んだ距離がわかる工夫を運動遊びの中に取り入れたり、跳び箱や大縄なども継続して使いながら考えていくことを大切にしていきたい。また、子どもの声に耳を傾けることで、様々な発見を日々聞き逃しているようにも感じたので、気付きや発見に、より丁寧にこちらが気付いて、子どもの知りたいというタイミングで一緒に考えを深めていきたい。



【5 歳児実施分】

問いを考える：ダンスの中にある跳ぶを探してみよう、どうやったらうまく跳べるかを考えてみよう踊りながらその場でジャンプするにはどうしたらよい？、立ち幅跳びではどうやったら遠く跳べるか、跳んでいるときに身体をどのように使った？、どうやったら大縄で多く跳べるかグループで話し合ってみよう、生活や遊びの中にあるジャンプを見つけてみよう

探究活動の様子：ダンスの中から見つけたジャンプをどうやったらうまく跳べるか、グループに分かれて話し合うが、なかなか意見が出てこないグループとたくさん意見が出るグループに分かれるため、全体での話し合いに切り替えてみる。すると、全員自分の意見を話すようになったが、動きについて考えるということに戸惑いがある様子だった。立ち幅跳びをやってみたあと、どうやったらもっと前に跳べるかを問うと、じっくり考えた後に意見が出てきた。アイデアを積極的に出していた。今度は跳び箱を使ったジャンプについて考え、身体をどのように使っていたかを問い、そこに意識を向けて再度跳んでみると手足の力がポイントと理解した様子だった。次に大縄でのジャンプについてグループごとに考えてみる。積極的に意見を出し合う姿が見られた。話し合いの前より、後の方が跳ぶ回数が増えていた。これまでどんなジャンプをしてきたか、振り返ると、よく覚えているようだった。

ふりかえり（保育士の気づき）：初めにテーマを伝えと、子どもたちからの意見が出てきやすかった。自分の意見だけでなく、周りの意見も聞きながらやっていくとさらに意識できるようになっていたように感じる。大人では思いつかないような子どもならではの表現もあり、子どもの表現が面白かった。質問されたことに対して、どんどん発言して、実際にやってみることで、身体はどこをどのように使ってジャンプしているか、どう跳ぶとよいかを身体で覚え、理解していく姿が見られた。回を重ねるごとに成長しているように感じる。活動のはじめでは、話し合いで意見が出にくかったが、子どもたちが活動の意図を理解してきていて、積極性も出たように感じる。半年かけて、1つのテーマで行う事で、子どもたちもより理解が深まり、考えたり試してみようと思えるのではなかと感じた。すくわくを通して成長することがたくさんあった。

